

1. 略歴

1989 年 3 月	東京大学文学部国語学専修課程卒業
1991 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程修了
1993 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程中退
1993 年 4 月	明海大学外国語学部日本語学科専任講師（～1996 年 3 月）
1996 年 4 月	茨城大学人文学部人文学科専任講師（～1997 年 9 月）
1997 年 10 月	茨城大学人文学部人文学科助教授（～2003 年 3 月）
2003 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部助教授
2007 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授（～現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

国語学

b 研究課題

日本語音韻史・日本漢字音史・日本韻学史を、主な専門領域とする。古代日本における外国語研究の二本の柱、すなわち漢字音韻学（中国語学）・悉曇学（梵語学）の学史的な研究を、主要な研究領域とする。先人の残したさまざまな記録を元に、江戸時代以前の日本における、音声観察・音声分類の発達および変遷を解明することを目指す。これらの研究成果と連動させつつ、漢字音の日本化の問題、拗音分布の偏在性についての歴史的解釈、濁音の起源（連濁現象の起源）についての考察など、音韻史分野にも研究対象を拡張し、着実に成果を上げている。近年の課題としては、国語音・漢字音（呉音系字音、漢音系字音、唐音系字音）・梵語音を総合する、日本語音節バリエーションの歴史を明らかにすることを目指している。

c 概要と自己評価

論文「『ひいやり』『ふうわり』から『ひんやり』『ふんわり』へ—撥音史からの検討—」においては、「A□B」型のリ延長強勢オノマトペ（促音挿入形・撥音挿入形だけではなく、二重母音形・長母音形をも含める）の歴史的変遷を考察した。古くはBの子音を延長するタイプのもののみが存在したため、Bが接近音の場合には、「ひいやり」「ふうわり」「ぼいやり」「やうわり」の類のみであった。平安時代において想定される二種の撥音、すなわちm音便の撥音・量的撥音便の撥音の統合、連声規則の盛衰との関係を検討し、「ひんやり」「ふんわり」の類が登場する経緯や、Bがラ行音の場合にこの型のオノマトペが許容されない理由等を考察した。

論文「撥音史から見た漢字音の三種の鼻音韻尾」においては、借用語音韻論の観点から、まず日本語の撥音の体系およびその変遷についての立場を確定した上で、そこに漢字音（中国語）の三種の鼻音韻尾が、どのように受容されたのかを、具体的な平安時代の資料（訓点資料や平仮名散文文献）の混沌とした実態に対する、再解釈を行った。

発表「サ行拗音—開拗音と合拗音のあわい—」（論文は印刷中）においては、開拗音の中でも特異なふるまいをするサ行（ザ行）開拗音と、早々に日本語の音韻体系から弾き出されてしまったカ行（ガ行）合拗音とが、平安時代には、以外に通じ合う性質を持っていることを指摘した。それが、カ行合拗音が〈あきま〉に取り込む形で、当初から一単位で受容されたのに対し、サ行開拗音は、古代日本語のサ行子音の音価の特異性から、他の開拗音と同様に分割した二単位での受容と平行して、（現代語のような）一単位での受容も行われていたため、その一単位性が、共通のふるまいのベースとなったとする仮説を提唱した。

文献資料の調査と理論的な考察の双方を、バランスよく進めてゆくことを目指す方針が、今期も成功したと考える。今期で、日本語の音節構造の歴史について一通りの私見の提出を終えた。これをまとめた成果を、2018 年度中に単行本として刊行する予定である。

今後、研究の焦点は、院政期から鎌倉時代・南北朝時代へと移行してゆくことになろう。

d 主要業績

(1) 著書

共著、肥爪周二、『漢語』、2017.10

(2) 論文

肥爪周二、「橋本進吉」、『日本語学』第35巻4号、2016.4

Hizume, Shuji “Some Questions concerning Japanese Phonology: A Historical Approach” 『ACTA ASIATICA』 111、東方学会、2016.8

肥爪周二、「日本漢字音史から見た法華経」、浅田徹編『日本化する法華経』アジア遊学 202、2016.9

肥爪周二、解説『反音作法』『伊呂葉字平它』、大東急記念文庫善本叢刊中古中世篇 14『伝記・願文・語学等』、2016.9

肥爪周二、「『ひいやり』『ふうわり』から『ひんやり』『ふんわり』へー撥音史からの検討ー」、『近代語研究』第 19 集、近代語学会、2016.9

肥爪周二、「音韻史 拗音をめぐる 2 つのストーリー」、大木一夫・多門靖容編『日本語史叙述の方法』、2016.10

肥爪周二、「音節構造史から見た江戸語の連母音音訛」、『近代語研究』、2018.3

肥爪周二、「撥音史から見た漢字音の三種の鼻音韻尾」、『訓点語と訓点資料』、2018.3

(3) 学会発表

国内、肥爪周二、「撥音史から見た漢字音の三種の鼻音韻尾」、訓点語学会、2017.5.21

国際、肥爪周二、「サ行拗音ー開拗音と合拗音のあわいー」、口訣学会、2017.8.16

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、國學院大學、「日本語音韻史」、2016.4～2018.3

(2) 学会

国内、訓点語学会、運営委員、2016.4～2018.3

国内、日本語学会、常任査読委員、2016.4～2018.3